

＜先週の説教から＞

『ルカ ③ 一神の国の福音を！』

武田真治牧師

イザヤ書 49：5～9A ルカ福音書 4：40～44

本日の箇所は、40節「日が暮れると、いろいろ病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。」から始まります。解説者の中には、この「日が暮れて」から「病人たちを連れて来た」という点に、人目を避けてイエス様の元に連れて来なければならない諸事情や問題があったと述べている方もいるのですが、これはその日の日没まで『安息日』であったからなのです（当時の一日は日没から始まり、次の日没まででした）。安息日の間は仕事をしてはいけなばかりか、移動することも制限を受けていましたから、人々は安息日が終わるのを待ち、日没になったらすぐに駆け付けたということ（＝病人の足では遅い場合に家族が連れて来た）です。すごいと思うのは、殺到する病人たちに対してイエス様が「その一人一人に手を置いていやされた」という点です。私共も経験がありますが、病気はいろいろな種類があり、症状も患部も異なります。当然、その癒し方も異なるはずで、イエス様はひとり一人の状況を聞き（＝カウンセリング）その人にふさわしい癒しを与えられたということでしょう。また、「手を置く」という行為は《聖霊を注ぐ》ことを指します。イエス様の癒しはその人に聖霊を注がれることで回復を与えられたのです（悪霊もたまたま出て行く）。その意味では、私たちにもこの主の聖霊が注がれるなら、快癒することは有り得るはずで、祈り求めたいです。

ただ「一人一人に手を置く」行為は時間が掛かります。おそらく夜遅くまで対応されたはずで、それ故なのか、「朝になるとイエスは人里離れた所へ出て行かれた」のでした。しばらく人に会いたくないと思われたのか？ 疲れを癒されるためか？ と思ってしまうのですが、これは《毎朝の祈り》を為さるためです。教えられますね、イエス様でも毎朝、祈りの時を持たれていたのです。逆に言えば、祈りの時がイエス様にも必要だったということです！ 翻って、私たちはこの《毎朝の祈り》の時を持っているのでしょうか？ これこそイエス

様がそうであったように、私たちにとって必要な時＝生きる力を与えてくれる時間ではないでしょうか？ 心したい！

続いて、イエス様は「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。わたしはそのために遣わされたのだ」と語られて、まだ癒しを求める人々が居たにもかかわらず、カファルナウムを後にされ、伝道の旅へと出られます。このイエス様の決意＝決断こそ、その朝の祈りの結果、示された《神様の御旨》だったと言い得ます。親しい人々が居る、そして居心地の良いカファルナウムを敢えて「去られる」ことは、まさにイエス様の“十字架への歩み”を彷彿とさせられます。

ただ一部の人達の救いのためだけでなく、全世界・全人類の救いのためには、十字架による“罪の赦し”を成し遂げなければならないと誓われたのでした。まさに、この罪の赦しこそ『神の国の福音』です！ 私たちも告げ知らせよう！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 1月22日(水) 20:00
II. 1月23日(木) 10:30

聖書研究：ローマの信徒への手紙
祈祷主題：関東改革長老教会協議会交換論壇を覚えて
担当者：(水) 松下 (木) 勝村
祈りに覚える人：坂田さん 真田さん

*ハンナの会 1月21日(火) 10:30～

【教勢報告】

主日礼拝 男 16 女 48 計 64
祈祷会 I. 男 4 女 2 計 6 II. 男 2 女 9 計 11
日曜学校 幼稚科 4 小中 5 計 9

【次週礼拝】 1月26日(日)

聖書：マタイによる福音書 25：31～46
説教：「イエス様の裁きの基準」
遠藤 敏二(かんじ) 牧師(館林教会)

讃美歌：8(1)、32、402、390、289、
24(1)

【次週当番表】

司式：相浦長老 奏楽：羽倉 礼拝：齋藤長老
献金：相浦 浅井 受付：金刺 坂田
会堂準備：大野 勝村 黒澤 鶴巻
西尾

看板：中村 週報：飯島 お花：飯島

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会
礼拝後：・お茶の会
・牧会/礼拝/教育/社会 各委員会

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2025年 1月 19日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>